第5回「アフリカの平和と安全に関するダカール国際フォーラム」における
佐藤外務副大臣スピーチ
(2018年11月6日(火) 於：セネガル・ダカール)

カバ外務・在外セネガル人大臣,
御列席の皆様,

本日、日本政府を代表して第5回ダカール国際フォーラムに参加でき、大変光栄です。サル大統領と関係者の皆様のご尽力に敬意を表します。日本として、第1回目以降継続してこの重要な会合の実施に貢献できること、また個人的にも、昨年に引き続き本会合へ参加できることを嬉しく思います。

御列席の皆様,

今回のフォーラムのテーマである「持続的な安定と開発への課題」は、アフリカのみならず持続可能な発展を目指す世界共通の課題であります。この考えの下、TICAD プロセスの文脈においても「平和と安定の促進」を重点分野の一つに掲げ、アフリカ地域の安定に積極的に関わってきました。

テロや暴力的過激主義、サイバー犯罪を含む組織犯罪への対処において、制度構築、体制強化は重要な課題です。ルワンダにおける国境管理強化のための顔認証システムや、コートジボワールでの警察向け指紋認証システム等、日本企業の優れた科学技術をアフリカ各国に導入し、治安維持体制強化に貢献しています。

日本はまた、2008年以降アフリカ15か国のPKO訓練センターに対し、約100百万ドルの支援をしています。加えて、近年のPKOにおける重機やその操作要員不足へ対応するため、2015年より「国連PKO支援部隊早期展開プロジェクト(RDEC)・アフリカ」を実施し、各国PKO施設部隊要員に、高い技術を持った日本の自衛隊員が技術指導を行う等、平和構築のための人材の育成にも貢献しています。サヘル地域の安定化に向けては、本年、国境管理能力の強化や汚職対策分野における約2,900万ドルの支援を実施しています。

御列席の皆様,

私はゴラン高原のUNDOFでは輸送隊の隊長として、またイラク南部のサマーワでは復興業務支援隊の隊長として派遣された経験があります。こうした経験を通じ、また昨年外務副大臣に就任して以降、チャド、中央アフリカ、コンゴ民主共和国といったアフリカ各国への訪問を通じ、制度や体制の強化と平行して、一般住民が生活環境の困難を背景に暴力に訴えるような状況を防ぐ社会作りが、テロ等組織

犯罪を根源的に対処する上で重要であると感じました。

この観点では、先ほど申し上げた制度、体制の強化支援に加え、日本は長年に亘り、保健・衛生、教育、技術・職業訓練分野の支援を行っています。先月行われたT I C A D閣僚会合では、アフリカ諸国の代表と共に、強靱な社会作りへの取組の進捗と課題について議論し、アフリカの主導によって地域の平和と安定を築いていくことを確認しました。

また、アフリカの平和と安定の実現に向けて、アフリカ自身の解決策を見出し、これを実現するための処方箋をアフリカひいては国際社会に示すことを目的に、本年8月にアフリカ賢人会議コアグループを開催しました。アフリカ5か国の元首脳の参加を得て、アフリカの平和と安定を阻害する原因と対処法について闊達な意見交換を行いました。

来年8月に開催されるT I C A D 7に向けて、アフリカ全体の平和と安定、そして持続可能な発展のため、日本は引き続きアフリカ各国、パートナー機関と協働して参ります。

最後に、今回の議論を通じて、アフリカの平和と安全のための協力が、より一層強化されることを祈念し、私からのご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

(了)